

会員各位

協会だよりー245(5月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

- 平成25年度の会員名簿を作成します。ご協力お願いいたします。
- 第217回月例会(講演会)の開催が決定。
講師：田中紀子さん(シグマ アルドリッチ ジャパン合同会社マーケティング本部
アナリティカル・ケミストリー&材料科学グループ マーケティング・マネジャー)
演題：「化学合成におけるマイクロリアクターの活用」
開催日：7月3日(水)、会場：ニュー新橋ビルB2ホール、懇親会場・・・検討中



©Takashi Matsuda

- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 第二十七回 JSCRA 会が終わって。
【予定事項】
- 三. 第三十八期定期総会が終了しました。
- 四. 事務局より(5月度の予定)
- 五. 【雑学】おくのほそ道ツアー十一三
新潟編(弥彦、出雲崎、鉢崎へ)

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー244(4月号)をメール&郵便で送信(4/1)
- ② 平成24年度会計監査
日時：平成25年4月8日(月)15:00~17:00
場所：太陽鉱工(株)東京支店会議室
出席：監事、会計、専務理事
- ③ 第38期定期総会資料の送付(4/9)
- ④ 第27回 JSCRA 会
日時：平成25年4月12日(金)
場所：大洗ゴルフ倶楽部
出席：4組(15名)

⑤ 2012年(平成24年)触媒資源化実績報告書の送付(4/23)

⑥ 平成25年度第一回役員会

日時:平成25年4月25日(木)14:30~15:00

場所:JXグループ六本木クラブ四階会議室にて

出席:会長、副会長、理事、会計、監事、専務理事

議題:平成25年度の事業計画、予算の承認と総会の運営。

⑦ 第38期(平成25年度)定期総会

日時:平成25年4月25日(木)15:30~16:30

場所:JXグループ六本木クラブ地下一階和室にて

【予定事項】

① 平成25年度第一回運営委員会

日時:平成25年5月17日(金)16:00~17:00

場所:堺化学工業(株)東京支店会議室にて

議題:第217回月例会(講演会)の運営。第219回月例会(一泊研修会)の進行状況。

2. 第二十七回 JSCRA 会が終わって。

4月12日(金)微風快晴に恵まれた大洗ゴルフ倶楽部にて15名参加で開催されました。難コースと言うこともあり、皆さん苦勞なさいましたが、幸いに怪我も無く全員完走いたしました。今回参加者の中で、最高齢である鶴岡 武さん(アジア物性材料株式会社社長)が優勝されました。次回開催(今秋予定)の幹事長は鶴岡さん幹事は西宮知明さん(相田化学工業株式会社)となりました。

お二人宜しく願いいたします。



3. 第三十八期定期総会が終了しました。

4月25日(木)来賓・経済産業省化学課の岩田寛治課長補佐の臨席のもと、出席会員30社(34名)、委任状提出会員8社でJXグループ・六本木クラブにて総会が開催されました。会長会社の人事異動で大藤俊洋さんより三浦章さんが会長を引継ぎ致しました。

《三浦新会長の挨拶》



JX日鉱日石金属(株)の三浦でございます。社内の人事で、4月1日より協会会長を大藤より引継ぎいたしました。昭和49年、触媒工業協会に廃触媒研究会が発足し、昭和50年にこの協会の礎となる使用済触媒資源化懇談会が出来ました。当時17社のメンバーであった協会も38年目に入り現在42社と成っています。レアメタルのリサイクルにはご苦勞もあると考えますが、当協会運営に尽力いたしますので、会員会社の皆様にはご協力願ひまして会長の挨拶と致します。

引続き岩田寛治様(経産省化学課課長補佐)より来賓のお言葉をいただきました。

藤井義一理事(クラリアント触媒(株))の司会、細田顕治副会長(松田産業(株))の開会の辞で総会が開始いたしました。平成24年度事業報告、平成24年度決算報告、会計監査報告が拍手で承認されました。続いて平成25年度事業計画、平成25年度予算も承認され、平成25年度月例会

の担当運営委員・幹事会社の発表、役員会、各委員会の新しいメンバーの紹介、会員資格変更の会員の紹介がありました。閉会の辞を宮崎隆史副会長（株徳力本店）よりいただき、総会も終了となりました。



来賓・岩田寛治課長補佐 2013.04.29



総会会場風景 2013.04.29



総会ご出席の会員の皆様

総会終了後、32名の出席により、17時30分より同場所にて懇親会が開催されました。

4. 事務局より（5月の予定）

月	火	水	木	金	土
4/29	4/30	1	2	3	4
昭和の日	○	○	×	憲法記念日	みどりの日
6	7	8	9	10	11
振替（こどもの日）	○	×	×	○	×
13	5/14~5/16			17	18
○	第15回奥の細道ツアー（敦賀・大垣）			第1回運営委	×
20	21	22	23	24	25
×	○	×	×	○	×
27	28	29	30	31	6/1
×	○	×	×	○	×

事務局延べ出勤予定：9日（○；終日、△；半日、×は休日）。

5. 【雑学】奥の細道(10-3)新潟編(弥彦、出雲崎、鉢崎へ)

本間屋を後にして、周りの田んぼは雪で真っ白、日差しが強い中、バスは弥彦へと向かいます。

《弥彦村》

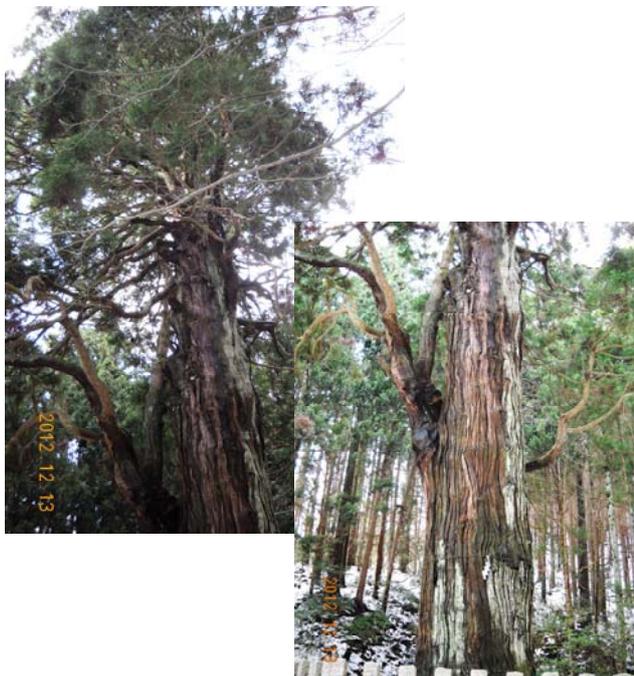
周りの町村が合併する中、一村独立を保っている人口約8,600人の村です。独立の要因はやはり弥彦山、弥彦神社や弥彦競輪場等の観光施設を有し村政が潤っているためかもしれません。隣接する牧町は新潟市へ、吉田町、分水町は燕市へ、寺泊町は長岡市となり、市に囲まれた村となりました。

【宝光院】西蒲原郡弥彦村弥彦

寺の入口が、まるで弥彦競輪場に入るのかと見間違ふ場所にある真言宗のお寺で、境内にある句碑の文言は「荒海や 佐渡に横多ふ 天乃河」です。越後では、出身でもある良寛和尚が有名で、弥彦辺りから良寛さんの記念館等が多くなってきます。雪の中、お堂の裏山に登ると樹齢一千年、樹高40メートル、幹周10メートルの巨大な《弥彦の婆々杉》が聳え立っています。



句碑の揮毫は庄本光政弥彦神社宮司です。婆々杉は一枚の写真では納まりきれません。



【弥彦神社】

越後一ノ宮として新潟県一の神社。奥の院は弥彦山にあり、観光シーズンにはロープウェイを使ったり、車でスカイラインをとおり、頂上まではあつという間に行けます。また秋に開催される菊花展は盛大で大変見ごたえのある行事です。訪れたときが12月中旬の平日午前中ということもあり、静かな境内でした。平成二十七年には御遷座百年に当たるため、境内では一部工事が始まっています。



【西生寺】長岡市寺泊野積 8996

弘智法印即身仏の寺として有名です。芭蕉さんも弘智法印即身仏を拝観するため、弥彦より出雲崎へ向かう途中に野道を掻き分け苦勞して西生寺に達したと曾良の随行日記にあります。越後路の旅先は殆どが曾良さんの記録に頼らなければなりません。また西生寺は弥彦山の西側中腹に立地しているため、境内の展望台から、日本海さらには天気が良ければ佐渡島を望める場所です。



西生寺本堂



境内の展望台より佐渡方面を望む

《出雲崎》

江戸時代は北前船の寄港地、幕府直轄領（天領の地）で、佐渡の金銀が陸揚げされる場所でも有り越後一の人口を有する町でした。また良寛さんの生誕地としても知られています。小高い丘と日本海に挟まれたわずかな平場に軒を連ねる街並み、「妻入り」という建築様式の建物が並んでいました。写真は出雲崎町産業観光課の飛び出すパンフを撮影したものです。



2013.01.08

芭蕉さんは西生寺の弘智法印即身仏を拝観した後、出雲崎大崎屋で泊まっています。

1891年（明治24）日本で始めて石油の機械式掘削に成功した石油産業発祥の地でもあります。

【芭蕉園】

越後路で詠んだ、おくのほそ道、最高の句「荒海や 佐渡に横たふ 天河」は出雲崎で生まれたといわれています。芭蕉園は当時の宿、大崎屋（今は一般の民家）の向かいに作られています。ここには芭蕉真筆の「銀河の序」全文の石碑と芭蕉さんの銅像が設置されています。



銀河の序



大崎屋跡

2012.12.13

出雲崎といえば、良寛さんを外すわけにはいかないでしょう。

【良寛堂（良寛生誕地橘屋跡）】

良寛さんの足跡は、新潟県内の寺泊の密蔵院、分水の五合庵、資料館としては長岡の良寛の里美術館や歴史民族資料館、分水の良寛資料館、出雲崎の良寛記念館等、数多くの場所がありますが、私たちは良寛さんの母のふるさと佐渡を見渡せる場所に設置された出雲崎・良寛堂を拝観します。

良寛は宝暦八年（1758）出雲崎町名主山本以南の長男としてここに生まれました。



出雲崎歴史国道（妻入りの町並み）を散歩しながら良寛堂、芭蕉園、北国街道妻入り会館、俳諧伝灯塚のある妙福寺（急勾配の石段を登った丘の上）を見学しました。最近の震災からここでも津波対策が採られ、現在位置の標高表示、丘の上への避難経路表示がなされています。

【妙福寺（俳諧伝灯塚）】



妙福寺の急勾配な石段と山門、左は俳諧伝灯塚（大正年間に再建されたもの）。この石段を登れば津波から逃げられそう。

たっぷりと出雲崎を見学した私たちも、午後2時を過ぎて腹ペコ、高速を使って昼食場所の米山「キーウエスト」へ急ぎます。3時過ぎもあって、昼食の刺身定食(舟盛膳)はあっという間に腹の中へと消えてしまいました。食後、国道を鉢崎に向かうと見晴らしのよい場所があり、眼下には陸地へべりついているごどくの鉢崎の集落が望めます。



国道直下の鉢崎集落と日本海
2012.12.13



舟盛膳
2012.12.13

曾良さんの日記によると、出雲崎を出発した芭蕉さんたちは柏崎市内の天屋弥惣兵衛に泊まる予定でしたが、なぜか揉め事も有ったようで不機嫌になり、家人が後を追うものの泊まらずに鉢崎まで足を伸ばしています。かなりの強行軍になったようです。

昼食の終わった、私たちは、眼下の鉢崎の集落へ向かいます。国道は鉢崎の集落を一跨ぎ、集落へは急勾配の坂道を下ります。



集落を一跨ぎの国道高架橋
2012.12.13



2012.12.13

芭蕉さんは鉢崎でたわら屋六良兵衛に泊まりました。たわら屋跡を見学、また当時の奉行所跡にも説明文が建てられています。日本海と小高い丘に挟まれた鉢崎の集落。ここも津波の場合は神社の石段を使って、高い場所へ避難するしかありません。この集落を流れるオガチ川には多くの鮭が遡っています。既に産卵を終えたのか、鮭の屍骸も浮かんでいます。



2012.12.13

今回の旅もここまで。帰路のため、バスは長岡駅を目指します。長岡より上越新幹線で帰京となりました。

【文責・専務理事】